

年末例会報告

2016年12月23日(金) 13時から16時30分

しげい病院5階のかわせみホールで行いました。7名の方のスライドでの発表があり、その後、参加者からの一言、懇談、懇親会と続きました。



◆スライド映写発表要旨◆



「2016虫アルバムから」青野 孝昭氏

チョウの吸水場面をシーズン中、気をつけて追っかけ撮影しました。

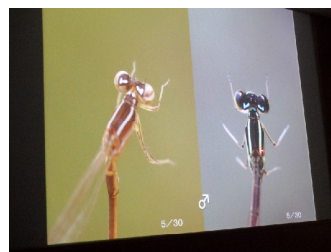
その写真を中心に二、三他のチョウも取り上げ、一方トンボにも目を向け、こちらの方は撮れたものから赤とんぼを中心

にいくつかを拾ってみました。



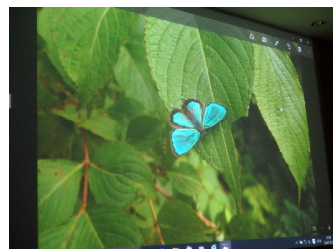
「モートンイトトンボの小さな記録」 脇本 浩氏

総社市黒尾新山の放棄水田に多数の生息している本種は、環境省、岡山県により準絶滅危惧種に指定されている。写真は、2016年5月27日から6月24日の約1ヶ月間に撮影したものである。本種の特徴として、♀の体色変化や眼後紋が独特であることなどがあげられる。本種以外にもイチョウウキゴケ（岡山県・準絶滅危惧）やハッチョウトンボ（岡山県・留意）など貴重な生き物たちが共に生息している。一方で、ミシシッピーアカミミガメなどの外来種がみられ今後が心配である。



「今年撮影した蝶の中から」 中村 具見氏

今年も岡山県内でいろいろ撮影した中から、コンデジで撮影したゼフィルスの幼虫や成虫をはじめ、樹皮上に静止したカトカラの擬態、ウラゴマダラシジミ♂の活動時間帯における飛翔シーン、少し変わった斑紋のクロアゲハその他、野外観察を通じて興味深いと思われる蝶や蛾について画像で紹介します。



「ヤクシマルリシジミはいつ岡山県に侵入してくるのか（その2）」

岡野 貴司氏

西日本に分布を広げてきたヤクシマルリシジミですが、広島県福山市西部で足踏みしてなかなか岡山県に入って来てくれません。静岡県以西の太平洋岸（瀬戸内も含む）で分布していないのは岡山県だけになってしまいました。愛媛県海岸線から北上して1996年に山口県屋代島に進入し、ここから東進したグループが2009年に広島県上蒲刈島へ、そして2009年には因島まで進出してきました。現在はここからもう少し東の阿伏兎付近で進退を繰り返しています。ここから笠岡市の神島や笠岡諸島まであと18kmなのですが、この壁がなかなか破ることができません。全国的にも拡散にあまりスピード感はなく、ほとんど動いていない地域もあるようです。これからも気長に笠岡での観察を続けたいと思っています。



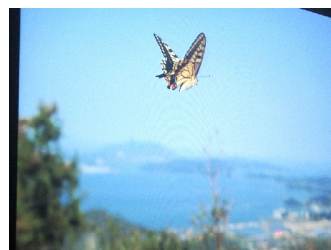
「FITの効用」岡本 忠氏

総社市昭和地区の甲虫相調査を 2005 年から始め、現在 1500 余種を記録できた。はじめの 5 年間はビーティングやスウィーピングなどが中心の採集であったが、2010 年末から、渡辺昭彦氏に薦められて吊り下げ式の FIT による採集をも始めた。これにより今まで通常の採集法では得られなかった多くの種が得られるようになり、体力の衰えとも相まって FIT を使用する調査が中心となった。2013 年からは地表式を取り入れることで更に効果的採取法となっている。今まで記録した 1509 種のうち 395 種が FIT で、そのうち FIT のみで得られたものは 239 種にもなる。また、県内初記録は 61 種あるが、そのうち 41 種は FIT によるものである。



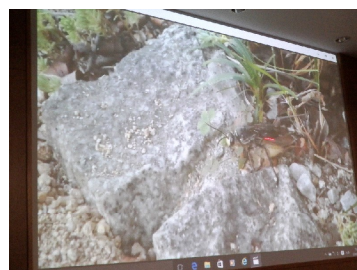
「桜、瀬戸内、蝶」藤本 徹哉氏

虫屋の世界は 3K でブラックだ。そう指摘すると、だれもが全力で否定する。危険も汚いも恐れず、どんなに厳しくても虫を探してきた本人たちには、全然自覚がないのである。しかし、そんなだから、虫屋人口は減り続けるのだ。幸い、中国地方には、美しい瀬戸内の風景がある。これに、古来からのこの国の娯楽の象徴、春の花見を合わせて蝶を撮ってみよう。虫の世界にはのどかで能天気なアプローチも可能なのだと思う人が現れてほしいという願いを込めて撮った写真のいくつかを紹介させていただいた。残念ながら、撮影の実際はおよそのどかとは程遠く、3K でブラックそのものだが。



「今年出会った昆虫たち；カミキリとクロアナバチ」大森 斉氏

今年も、カミキリムシやその他の身近な昆虫の観察を続けています。春の県北で、ヤマシャクヤクの花に来るフタスジカタビロハナカミキリ、冬には、岡山市近郊の低山でカクレミノの枝にしがみついて成虫越冬するタテジマカミキリなどの生態を観察して楽しみました。また、10月にはネズミサシのビーティングで、初めてケブカマルクビカミキリを採集することができました。この他に、8月に我が家の庭でいくつも巣穴を掘っていたクロアナバチの巣作りの様子と、獲物であるクビキリギスを巣穴に運び込む行動をじっ



くり観察し、動画で記録しました。以下のサイトでご覧いただけます。
<https://youtu.be/nR-EvkPac6M>

< 1年間をふり返って >

「コメツキとコメツキダマシを中心に調査を進めています。難しいグループで解明はなかなか進みませんが、県内にもまだまだ少なくない未記載種を含めておもしろいものが多くいることも分かってきました。今後もマイペースで少しずつ進めていくつもりにしています。」(渡辺 昭彦)

「一年を振り返って、自分自身の成果は思い当たるものはありませんが、博物館資料が充実するにしたがって利用も増え、多くの方に成果を発表していただけることが喜びとなっています。これからもよろしくお願いします。」(奥島 雄一)

「矢掛町在住の江木と申します。運動不足解消のため、たまに水生昆虫を探して遊んでおります。今後ともよろしく願い申し上げます。」(江木 寿男)

「昨年一度まとめて報告した岡山県内のセダカコブヤハズカミキリの調査を今年も継続して行いました。なかなか大変でしたが、新発見も得られ有意義な一年であったと思います。」(中野 一成)

「今年は吉備津神社の裏山(吉備の中山)の甲虫調査をしました。少しおもしろい甲虫も採れたのです。むしに報告します。人里に近い場所なので近代の歴史が反映されているのかもしれない。」(山地 治)

「今年は市街地周辺の採集が多かったです。ヤノトラカミキリやクロマダラタマムシ、クリイロヒゲハナノミも結構見ました。あとFITもして微小甲虫を採りました。」

(武田雅生)

「岡山県南での採集が、多かったです。ただFITをかけたりして微小甲虫も多く得られたので、よかったです。」(武田寛生)

「島根大学を卒業し、就職して岡山へ来ました。学生の時にハナバチの研究をしていたため、これから何年かかけて岡山のハナバチ類を調べていければと思っています。今年はフィールド探して手一杯でした。これからよろしくお願いします。」(大對 桂一)

「ここ数年、岡山県内のブナ林を歩いてきました。以前は、北部の山々は植林に覆われブナは少ないと思っていましたが、実際には規模が小さいものの標高さえ上げれば多くの場所に残っていることが分かりました。ブナ林の虫も、意外と沢山残っていそうです。」

(三宅誠治)

「2016年もガとチョウの両刀使いでした。ガでは糖蜜採集と灯火採集に励みましたが、ややポイントがマンネリ化していると感じています。しかし定点観測にも意味があり、ちょっと迷うところです。チョウでも同じことが言えるのではないかと感じています。」

(岡野貴司)

「最近数年間は、岡山県でトビケラを調べています。中南部での調査が不十分なため、来年は中南部を重点的に調べたいと思っています。」(野島宏一)

「この1年は、ベニイトトンボの生態を調査するために、ほぼ毎週のように一つの池に

(原則として自然史博物館かJR倉敷駅)まで自力で来られるか、保護者の送迎がある。参加費(保険料400円+交通費)を自己負担できる。長時間の野外調査が可能な体力があり、行動に自己責任を持てる。

◆申込み:2017年5月6日(土)までに電話・電子申請などで博物館まで。

◆募集人数:10名程度

◆入隊説明会・オリエンテーション:

日時:2017年5月7日(日),14~16時

(説明会終了後オリエンテーション)

場所:自然史博物館地階講義室

持参品:筆記用具,保険料400円(隊員になった方のみ集金,野外活動2回分)

◆年間予定:

5月7日(日) 入隊説明会・オリエンテーション

6月4日(日) 第1回探検(笠岡市高島で昆虫採集)

7~9月 博物館で展示サポート活動(3日間以上)

10月ころ 「しぜんしくらしき賞」作品応募

11月3日(金・祝) 「自然史博物館まつり」で昆虫コーナー開設

12月16日(土)まで 「しぜんしくらしき」原稿提出

12月17日(日) 第2回探検(高梁市で昆虫採集)

3月18日(日) 研究発表会

◆備考:途中でキャンセルされても保険料は返金できません。「探検」に保護者は同伴しません。数名の指導者(隊長・副隊長)が同行します。友の会と共催です。特に初めて参加をお考えの場合は,できるだけ保護者の方も入隊説明会へご参加ください。副隊長(大学生以上)も募集しています。お問い合わせは自然史博物館の奥島まで。

◎自然観察会「おかやま自然探訪54」

岡山県内の合併前の旧市町村をひとつひとつ訪ねるシリーズ観察会の第54弾です。今回は旧鏡野町へおじゃまして香々美ダム湖周辺の岩石・植物・昆虫・動物などを観察します。

◆日時:2017年5月14日(日)10時~14時(受付9時30分~10時)

◆観察場所:鏡野町越畑

◆集合場所:同上 旧越畑小学校跡地

◆講師:自然史博物館学芸員ほか

◆持参品:筆記用具,観察用具,昼食・飲料水,雨具,救急用品など。

◆申込み:5月13日(土)17時までに電話・ファックス・ハガキ・電子申請などで自然史博物館へ。中学生以下の方は保護者同伴でご参加ください。

◆交通案内:今回は公共交通機関の便が良くないので自家用車などでご参加ください。集合場所に駐車できます。

◆備考：雨天決行。ただし警報発令時などは中止します。天候があやしい場合は、当日朝8時以降に友の会携帯電話（090-8242-3896）までお問い合わせください。トイレは集合場所にあります。

◎自然観察会「中国山地の植物観察1」

岡山県北東部にある後山山系のひとつ、標高1281mの駒の尾山に登ります。登山口から山頂まで標高差350mほどで、緩やかに続く尾根道をゆっくり登ります。山では草木のさまざまな花が見られる季節で、天気さえ良ければ快適な登山が楽しめます。

◆日時：2017年6月3日（土）9時～15時（受付8時45分～9時）

◆観察場所：英田郡西粟倉村 駒の尾山（こまのおさん）

◆集合場所：英田郡西粟倉村影石の駒の尾山登山口駐車場（林道ダルガ峰線沿い）

◆講師：狩山俊悟（自然史博物館）、友の会幹事

◆申込み：6月1日（木）17時までに電話・ファックス・ハガキなどで自然史博物館へ。電子申請も利用できます。

◆持参品：弁当、飲料水、カップ（傘は不可）、手袋、帽子、救急用品、筆記用具、観察用具、ザック（荷物はすべてザックに入れ、両手を空ける）、登山靴などの足元がしっかりした靴、必要に応じてストックなど。服装は長袖シャツ、長ズボンで

◆交通案内：適当な公共交通機関がありませんので、自家用車などをご利用ください。旧大原町より国道373号線で西粟倉村に入り、西粟倉小学校・幼稚園の手前を右折（友の会の旗あり）、引谷川沿いに川を上ると大規模林道に出ます。右折して20mで左折（友の会の旗あり）、すると林道ダルガ峰線に入ります。狭くてカーブの多い道ですが、舗装された林道を道なりに進むと集合場所です（途中に大海里方面の表示あり。行かない）。西粟倉小学校・幼稚園から集合場所の駒の尾山登山口駐車場まで約7kmです。

◆備考：雨天決行。ただし、警報発令時は中止。警報が出ていなくても荒天が予想される場合は林道沿いの植物観察に変更する場合があります。天候があやしい場合は当日朝6時以降に友の会携帯電話（090-8242-3896）までお問い合わせください。トイレは集合場所にあります。小学生以下は保護者同伴でご参加ください。

問い合わせ先：倉敷市立自然史博物館

〒710-0046 倉敷市中央2-6-1 電話 086-425-6037

E-MAIL musnat@city.kurashiki.okayama.jp

URL <http://www2.city.kurashiki.okayama.jp/musnat/index.htm> （奥島雄一）

【住所変更】

No.446 藤谷 美文
No.472 末長 晴輝
No.352 久保田直哉

【新会員】

会員番号	氏名	住所	興味ある分野
No.521	江木 寿男		水生昆虫
No.522	小川 道博		甲虫

【交換文献】

(2016.11.1130～2017.3. 24受付分)

ちょうしゅう便り(31)	山口むしの会
庄原市立比和科学自然科学博物館標本資料報告 (16)	庄原市立比和科学自然科学博物館
比和科学自然科学博物館研究報告 (58)	
徳島県立博物館研究報告 (26)	徳島県立博物館
とつくりばち (84)	石川虫の会
Nature Study 62(11),(12),63(1)～(3)	大阪市立自然史博物館友の会
自然史研究 3(17)	〃
自然史研究目次 3(1-17)	〃
大阪市立自然史博物館資料 48集 瀬戸内海産魚類標本目録	〃
誘蛾灯 (226),(227)	誘蛾会
誘蛾灯総目次 (199-226)	〃
駿河の昆虫 (255), (256)	静岡昆虫同好会
ちゃつきむし (189),(190)	〃
蛾類通信 (279),(280)	日本蛾類学会
蛾類通信総目次(251-275)	〃
比婆科学 (258)	比婆科学教育振興会
TINEA 23(5)	日本蛾類学会
ゆらぎあ (34)	鳥取昆虫同好会
KORASANA (85), (86)	久留米昆虫研究會
久留米虫だより (229)～(231)	〃
インセクト 67(1),(2)	とちぎ昆虫愛好会

【寄贈図書】

(2016.11.1130～2017.3. 24受付分)

企画展解説 絶滅 (生物はなぜ滅びるのか)	徳島県立博物館
企画展解説 エイリアン スpecies 知られざる外来生物の姿	〃
企画展解説書 南アメリカの自然	〃
企画展解説書 吉野川の自然	〃
企画展解説書 甲虫の世界	〃
企画展解説書 海道をゆく 黒潮のはこんだもの	〃
企画展解説書 チョウとガ ウロコをもった虫たち	〃
富山県のカミキリムシ類 (富山県の昆虫シリーズ 第1号)	富山昆虫同好会
特別展解説書 氷河時代 気候変動と大阪の自然	大阪市立自然史博物館
ミニガイド No.28 バタフライガーデンとアサギマダラ	〃

<倉敷昆虫同好会 連絡先> 年会費 2,000円 郵便振替口座 01210-2-6927
 〒710-0051 倉敷市幸町2-30 倉敷昆虫館内 倉敷昆虫同好会事務局
 TEL. 086-422-8207(直通) FAX. 086-421-1991 E-メール kurakon@shigei.or.jp
 開館：午前9時30分から午後5時まで (13:00から14:00は閉館)
 休館日：月曜日 (祝日・休日の場合は開館し、翌日が休館)、12月29日から1月3日